



株式会社ロコレディ代表

羽富 都史彰さん

<http://plaza.rakuten.co.jp/rocolady/>

# 茨城弁と名古屋弁を操る バイリンガルな 婿養子社長にインタビュー

実家は、名古屋。剣道家の家に生まれ、男三人兄弟の次男。

「男世界」中心の生活を送ってきた羽富都史彰さん。

転職先が、茨城県常総市。今度は女性ばかりの婦人服店勤務。

その後、後継者に指名される。

「男が上で、女は下」男尊女卑で育った羽富さんが、

今では「翔（はばたく）女性を応援する」会社の社長として

「女性よりも女性心が分かる上司」と慕われている。

「つこりとまんまるな笑顔の裏側にあるものは？」

地域での活動や「女性心理」楽習（がくしゅう）法を伺った。

## 茨城の良さって何？

◆名古屋育ちの羽富さん、茨城に住んでみていかがでしたか？

名古屋では、笑いの文化の中で生活しました。茨城の人は、口下手で、内向きの方が多いですよ。でも、生活して、親切な人が多いとスグわかりました。

◆確かに保守的でPRRベタなところがありますね。

中（茨城）にいると見えないものがあるんですよ。私はよそ者なので、それが良く見えましたが（笑）。もしかしたら、外からの風が必要なんじゃないかと思いましたね。

◆例えば？

常総市に住んでいますが「常総は何もないんだよね」って皆さん口を揃える。でも、私のようなよそから来た人間が見ると、いいところがいっぱいあるんですよ。千姫まつりや花火大会、弘経寺もいいところですよ。

◆街のイベント活動もされていますよね？

おもてなしの心を大切に、来てくれた人を楽しんでもらいたい。例えば、常総きぬ川花火大会では運営のお手伝いや、お笑い芸人の赤プルさんを招いたり、イバラキングの青木さんと一緒に地元が源氣（げんき）になるイベントを開いたりしています。

◆どんなアイデアがあるんですか？

街だけでイベントを考えるだけではなく、これからは「街と街をマッチング」する時代だと思っています。

各地から特技のある人が集まれば、もつとイベントも面白くなる。それが出来るのが、私達民間の役目かなあ〜？と。

◆今では茨城弁も板についていますね（笑）

んだ〜（笑）茨城弁と名古屋弁、どちらも通訳できますから。バイリンガルな男と呼んでください（笑）茨城弁が分かる、その人の想いが、素直に伝わってきますよ〜。

## 仕事が出る 女性社員を育てる方法

◆仕事では女性スタッフとの間で苦勞もあつたか。

最初は全て命令口調でしたから（笑）叱り飛ばして、それが正しいと思っていたので、スタッフがどんどん辞めていきました。

◆それが今では、ほとんどのスタッフが長く勤めている人ばかり。何がきっかけ？

創業者、義父の故羽富正三の言葉です。「相手の立場になって話し、理解をしてもらえなければ、いくら正しいことでも部下はそれを受け止めない」「子供を褒める時は、しゃがんで褒めるヨナク。目の位置を合わせて、こやかに褒める。これが人を育てるコツだ」。その言葉に、はつとしました。

◆一般に職場の女性と仕事やりづらいつつ、男性上司は、多い？

大事なことは、女性という大きな枠ではなく、一人ひとりを見て、話を聴くことですね。未婚の女性、結婚して姑さんのいる女性、核家族で働く女性、子供が成人している女性、条件が同じ女性はいくらもいません。

◆そのことに気づいたことで「オーダーメイド型雇用人事制度」が出来たのです。

『オーダーメイド型雇用』とは、その人に合った勤務時間が選べる方法です。これは、優秀な社員が、雇用形態が合わずに辞めていったことを知った時に開発しました。ただし、勤務時間が長い、短い方も同じ社員です。雇用形態に配慮はしますが、仕事内容に遠慮はしません。チャンスも責任も平等です。

◆女性社員を育ててきて、感じたことは？

なんで出来ないんだ！と思うこともたくさんありました。けれど、仕事が出来ないと思っていたスタッフは、実は「やり方を知らない」だけだったんです。その誤解に気づいて、

はつとしましたね。仕事ができないスタッフを作っているのは、実は、この上司の私だったのです（苦笑）。

◆具体的には？

一例ですが、社員に仕入れの権限を委譲。愛情を持って任せること、女性特有の甘えを許さず、長い眼で。

そして分からない事があれば「どこが分からない？」と声をかけるようにしています。

## 男性読者必読、 女性の心がわかる方法

◆それは仕事だけではなく、家庭でも同じことが言えますよね。

ハイ。例えば、自分の妻、姉妹など、女性の日常生活を観察して、つひつひの言動を分析することでヒントをもらったり。教えるのではなく見守ることから、始めたらどうでしょうか。助けるよりサポートすることが大切です。私は、数々の過ち失敗からコツを、そして、実践の中で、女性の行動心理楽（がく）を学びました。

それは子供の共育（きょういく）も同じですね。

## これからの挑戦

◆最後になりましたが、これからどんなことをしようとお考えですか？

ロコレディとしては、母と娘（こ）が安心して買える店作りを考えております。親子が一緒に買える洋服店って、あまりないんですよ。30才代〜60才代中心の2世代が、楽しく快輪（かいわ）をしながらお買物を楽しんでもらう店でありたい。また、地域のコミュニティとして利用できる場所作りも考えています。

## Profile プロフィール 羽富 都史彰 Toshiaki Hatomi



1959年 名古屋市瑞穂区生まれ  
1982年 株式会社東京スタイル入社  
1987年 株式会社ロコレディ入社  
1999年 株式会社ロコレディ代表取締役就任  
2007年 『オーダーメイド型雇用人事制度』で、茨城県知事より男（ひと）と女（ひと）ハーモニー功労賞を受賞  
週刊朝日、能力開発21、日経MJ等で取材多数。  
ラチオつくばに出演、「@town常総」ではパーソナリティの一人として常総市の魅力を語っています。

## シリーズ 今を輝く人 地域で活躍されている方をご紹介下さい。

シンヴィング「今を輝く人」では、地域で活躍されている方を取材させていただいております。お近くに「才能あふれる人」「地域貢献にがんばっている人」「子どもに夢を与える活動をしている人」など、この人を取材してほしいという方がいらっしゃいましたら、ぜひ編集部へ情報をお寄せ下さい。あなたの情報がシンヴィングをもっと楽しく、ワクワクする情報紙に変えていきます。「あなたの声」をお待ちしています。ご連絡はハガキ・FAX・メールで編集部までお願いします。

〒300-2337 つくばみらい市谷井田1379-7  
(株)エムディー「今を輝く人」係宛  
■FAX 0297-44-4623 ■E-mail info@thinving.com

街の商店街は、笑店街（しょうてんがいの）にしたいですね。そして、頑張るのではなく、顔晴（がなば）（ご）いませしよう〜。

◆今日はありがとうございました。（笑）